

12 つくる責任  
つかう責任



## やってみよう！ 私たちにもできること

SDGsの目標12「つくる責任 つかう責任」の目標は、**持続可能な消費と生産**のパターンを確保することです。これが達成できれば、資源の枯渇を防ぐことができます。目標達成には私たち一人一人が協力していかなくてはなりません。私たちが出来る取り組みをいくつか紹介します！

### 1 着なくなった服どうしてる？

リユース・リサイクルは資源を守るためにとても重要なことです。環境省によると日本では手放された服のうち34%ほどしか再活用されておらず、残りの66%はゴミとして処分されているのが現状です。[UNIQLO](#)では店舗で着なくなった服を回収し、難民キャンプや被災地の方々に届けたり燃料や防音材にリサイクルしたりしています。家で簡単にできる[フリマアプリ](#)などもたくさんあります。捨てる前に一度考え直してみましょう！

参考) [環境省](#)



### 2 水筒は“魔法”の道具？

ペットボトル飲料ではなく、水筒を使うことで、余計なゴミを増やさずにすみます。さらに、そのつど飲料水を入れて使うので、お金の消費も抑えられます。また、水筒には保冷効果があるので、いつでもどこでも冷たい状態のものを飲むことができます。このように水筒とは、**環境・財布・自身に優しくなれる魔法**のような道具なのです。熱中症や水分不足を防ぐためにも、外出する際には、水筒で水分をとりましょう！



### 3 食品ロスを減らそう！！

食品ロスは業務系食品ロスと家庭系食品ロスがあります。そして家庭系食品ロスは年間276万トンに及び、**年間一人当たり約47キログラム**捨てていることとなります。これを少しでも減らす工夫として、[フードドライブ](#)について紹介します。フードドライブとは主に家庭で余った食べ物を地域の福祉団体やフードバンクに寄付することです。日本では海外よりは浸透していないものの、多くの自治体で広がっている取り組みです。フードドライブを利用し家庭内の食品ロスを減らしてみましょう！

参考) [農林水産省](#)



～ あとがき～

私たちは毎日当たり前のように多くのごみを出してしまっていますが「つくる責任 つかう責任」この目標を達成するために私たちができることはたくさんあります。自分にできることから少しずつやってみましょう！

環境 ISO 学生委員会 白鳥宏静 望月佳穂 越智楓 水谷杏 長谷川佳恵